

勉強会

質問や提案を作成するための勉強会を2回行いました。最初は緊張しましたが、希望する分野ごとのグループに分かれ、現在の状況や10年後の広島県について議論するうちに、すっかりうちとけて、色々な意見が出てきました。県職員や大学生サポーターからアドバイスももらって、質問をまとめていきました。本番に向けて、議場見学も行いました。



日時 7月29日(土)・8月26日(土)
場所 広島YMCA国際文化センター・県議会委員会室

任命式

子供議員の代表者が、中本議長から任命書を、緒方副議長から子供議員バッジを交付されました。



日時 10月22日(日)
場所 県議会議場

議員交流会

6つのグループに分かれて、ふだんあまり関わることのない県議会議員に、質問や意見発表をうまく行うコツなど、色々な質問をしました。



日時 10月22日(日)
場所 県議会委員会室

参加した子供議員の感想

色々な視点から物事を考えることができて良かった。

本物の議場で、知事等に自分の意見を言えて、とても貴重な体験ができた。

広島県の取組や、県議会議員の仕事について知ることができた。

同じ志を持った仲間と知り合い、協力し合えて良かった。

議会の仕組みが良く分かり、議員の大変さと緊張感を味わうことができた。

制作・発行 広島県 広島県議会

子供議会の模様は YouTube で配信しています。



お問い合わせ

〒730-8511
広島市中区基町10番52号
広島県環境県民局県民活動課
TEL 082-513-2740
E-mail kankatsudo@pref.hiroshima.lg.jp

広島県議会事務局議事課
TEL 082-513-4731
E-mail gikaigiji@pref.hiroshima.lg.jp



広島県子供議会だより

令和5年度



広島県子供議会を開催しました。

これからの未来をつくる子供たちが、社会に関心を持ち、よりよい社会をつくるために何ができるかを考えるきっかけとするため、県と県議会が主催して「広島県子供議会」を開催しました。

県内の小学校5年生から中学校3年生までの45人の子供議員が、事前の勉強会で県や県議会の役割などを学んだ後、6つのグループに分かれて、「10年後の広島県がこうだったらいいのになあ」というテーマでアイデアを出し合い、現状や課題を分析したり、解決策について活発に議論し、質問や提案をまとめました。

当日は、任命式で交付された議員バッジをつけ、議員交流会で県議会議員に質問したり、議場での発表についてのアドバイスをもらったり、本番に向けて気持ちを高めていきました。

広島県子供議会が始まると、県議会議員が実際に見守る中、湯崎知事や平川教育長などに対して、みんな大きな声で堂々と質問し、答弁を受けました。

閉会時には、湯崎知事から、「皆さんが、広島県の未来のために議論し、考えられた提案はどれもすばらしく、熱意を感じました。これからも学校や地域など、皆さんの周りをよりよくするためにどのようなことが出来

るか、自ら考え、周囲と協力し、行動していただければ嬉しいです。私たちも、皆さんの意見を反映させた施策作りができるよう取り組み、皆さんに「広島に生まれてよかった」「広島に住み続けたい」と思ってもらえるように頑張ります。」と、今後の子供議員に期待する言葉がかけられ、また、中本議長から、「皆さんの立派な提案を聞きながら、県議会議員として皆さんに負けないよう、広島県の明るい未来のために全力で頑張っていこうと改めて思いました。今後も様々なことに興味を持ち、チャレンジしてください。」と、激励の言葉がかけられました。

終了後、子供議員からは、「色々な視点から物事を考えることができて良かった。」「本物の議場で、知事等に自分の意見を言えて、とても貴重な体験ができた。」「広島県の取組や、県議会議員の仕事について知ることができた。」「同じ志を持った仲間と知り合い、協力し合えて良かった。」「議会の仕組みが良く分かり、議員の大変さと緊張感を味わうことができた。」などの声があり、みんな達成感にあふれた表情をしていました。

令和5年10月22日



平和・観光グループ

なぎさ公園小学校	森末 紅子 議員
盈進中学校	塩田 帆夏 議員
広島市立祇園中学校	神田 美桜 議員
ノートルダム清心中学校	中馬 越有莉 議員
広島市立天満小学校	志治 加奈子 議員
広島大学附属小学校	力本 結月 議員
広島市立緑井小学校	岸田 衣代 議員
福山市立駅家南中学校	岡崎 帆香 議員

質問 被爆者の体験を、マンガや絵本などの読みものや、アニメや映画などの映像を活用して、幅広い世代に広く伝えていく取組をどのようにか。

答弁 「国際平和拠点ひろしま」のウェブサイト上で、当時、広島電鉄の運転手をしていた少女が原爆(げんぱく)に遭った時の話のマンガなど、皆さんに読んでほしい原爆や平和について描いた絵本や映画などを紹介している。
これからも、このようなマンガや絵本などを活用して、被爆者の体験を、できるだけ多くの人にわかりやすく伝えるための取組を進めていく。

被爆(ひばく)体験の伝承

質問 各市町にも協力してもらい、地元の人のみ知る穴場スポットや隠れ名所、推しグルメなども盛り込んだ地域ならではのパンフレットを作っているかどうか。

広島の特産品をつくる体験が出来る施設や、体を動かして遊べる施設など、みんなで楽しめる観光スポットを増やしてはどうか。
みんなが楽しめる宿泊施設の充実に取り組んでどうか。

答弁 地元の人のみ知る穴場(あなば)スポットや、隠れた名所、お勧めの体験メニューなど、その地域ならではの観光スポットについても、SNSでの発信の充実(じゅうじつ)やパンフレットの作成を通じて、紹介(しょうかい)していきたいと考えている。
夜神楽ツアーや、江の川の大自然や食を満喫(まんきつ)するガイド付きサイクリング、お好み焼きの調理体験などのメニューづくりや紹介をしてきた。引き続き、広島県の伝統文化や自然などを体験できる新たな観光メニューの開発を進めていく。
レモンの収穫(しゅうかく)体験と瀬戸内の絶景温泉宿や、夏のスキー場でのパギー体験とグランピングなど、広島ならではの体験と宿泊を組み込んだ観光メニューづくりなどに取り組んでいる。今後も観光連盟(かんこうれんめい)や市町、旅行会社などの観光に関わる方々と一緒になって、広島の魅力や体験できる宿泊施設の充実に取り組んでいく。

何度来ても飽きない広島県



学校・学びグループ

広島市立竹屋小学校	山谷 優斗 議員
海田町立海田小学校	桑原 一華 議員
広島市立中筋小学校	佐藤 舞華 議員
広島市立安佐南中学校	大下 采美 議員
府中町立府中東小学校	安本 有里 議員
広島市立美鈴が丘中学校	濱田 倖成 議員
広島市立緑井小学校	塚本 結翔 議員

質問 いじめが発生しないように、いじめが早く分かるように、もっといじめについて、授業時間を増やすことや、いじめに関するアンケート調査の数を増やすことはできないか。

いじめの相談や問題があった場合には、先生が、必ずスクールカウンセラーに相談することにする。また、カウンセリングをする場合には、いじめられた人、いじめた人の両方が受けるようにしてはどうか。

答弁 いじめを減らしていくために、道徳科の授業等で、自分の考えを深めることや、アンケート調査を実施することで、いじめを早期発見することは、とても大事なことである。引き続き、皆さんがいじめについて考える機会を増やすとともに、先生や身近な大人に相談しやすくなる環境(かんきょう)づくりに取り組んでいく。
学校の先生とスクールカウンセラーが連携(れんけい)し、いじめられた児童生徒に寄り添(そ)える体制をつくり、傷ついた心のケアを行う一方で、いじめをした児童生徒に対しても、抱(かか)える不安や不満などのストレスを受け止めることができるように支援(しえん)している。引き続き、先生とスクールカウンセラーをサポートし、いじめなどの悩みを身近な大人に相談しやすくなる環境づくりに取り組んでいく。

いじめ問題の対策

質問 給食を残さず食べる大切さについて学ぶため、給食の食べ残しがどのくらいあって、どのように処分されているのか、工場などを社会科見学するのはどうか。

広島県内の学校が、給食を残さないように、みんなで頑張るため、「残食ゼロの日」を作ってはどうか。

答弁 各学校では、給食の時間をはじめ、家庭科や特別活動等において食べ残しをなくすための取組を行っている。引き続き、児童生徒の委員会活動で給食の食べ残しの調査をしたり、給食時間に苦手の食べ物にチャレンジするよう声掛けするなど、給食の食べ残しをなくなるよう取り組んでいく。
「残食ゼロの日」のような取組は効果的だと思うが、一方でプレッシャーに感じる児童生徒もいるため、一人一人の状況を考えてながら、取組を進めていかなければいけない。各学校が行っている食べ残しをなくすための様々な取組を、他の学校にも展開していくことで、食べ物を大事にする心を育てていく。

給食の食べ残しをなくす取組



自然・エコグループ

ノートルダム清心中学校	仲村 美咲希 議員
海田町立海田小学校	平賀 千陽 議員
広島市立三入東小学校	西本 信輝 議員
広島市立中筋小学校	浅沼 采那 議員
広島市立春日野小学校	長濱 佐奈 議員
海田町立海田西中学校	鶴原 優愛 議員
呉市立呉中央小学校	吉村 智徳 議員
広島市立祇園中学校	田中 翔斗 議員

質問 公園や街中のちょっとしたところにゴミ箱の設置を増やすことを考えてはどうか。
みんながゴミを捨てたくなるようなゴミ箱への工夫を考えてはどうか。

答弁 公園や街中にごみ箱を増やすことは捨てやすくなる一方で、ごみが減らない、十分な分別が行われないなどの課題がある。このため、市町ではごみ箱の設置を観光客などが多く訪れる地域(ちいき)に限定し、公園や街中については、持ち帰るよう促(うなが)す看板の設置などに取り組んでいる。県としても、ごみは自分で持ち帰ること、また設置されたごみ箱についてはルールを守ってきちんと使うことを市町とともに呼びかけていきたいと考えている。
昨年度、事業者などと連携し写真を撮(と)りたくなるようなデザインをラッピングし、IoT技術により、入っているごみの量をリアルタイムで把握(はあく)し、ごみがあふれないように圧縮(あつしゆく)できるスマートごみ箱「SmaGO」を県内4地点に計12台設置した。今後も、ごみをきちんと捨てたくなるような工夫や、楽しい仕掛けなどのあるごみ箱の設置に向けて、積極的に取り組んでいく。

ごみのポイ捨て防止に向けた対策

質問 捨てられているごみを拾うことが楽しくなるような取組を考えてはどうか。
リサイクルに対して、更なる動機づけを高める工夫を考えてはどうか。

答弁 拾うことと楽しさを組み合わせたイベントが県内で広く行われるよう、事業者や団体の自主的な取組を後押ししている。ごみを拾うことが楽しくなるような取組が継続的に実施されるよう事業者や市町とも連携していく。
「ポイントが付くペットボトル回収機」を、県内120箇所(か所)に設置しているほか、ジャンパーボトルなどの回収についても、ポイントを付与する仕組みづくりを行っている。今後もポイントを活用するなど、リサイクル活動の新たな動機づけにつながる取組を進めるとともに、リサイクルの意義についてもわかりやすく伝え、リデュース、リユース、リサイクルの3Rの推進に取り組んでいく。

ごみ捨ての意識を高める取組



福祉・ひとグループ

福山市立加茂小学校	佐藤 夢希 議員
広島大学附属三原小学校	安藤 瑞希 議員
広島市立祇園中学校	山本 芽依 議員
広島市立牛田小学校	野元 ノア 議員
福山市立宜山小学校	岡本 育万 議員
海田町立海田小学校	藤岡 舞妃 議員
府中町立府中東小学校	谷口 敦誠 議員
海田町立海田西中学校	島本 瑞樹 議員

質問 犬や猫の譲渡会(じょうどかい)を県内の様々な地域で開催して、県のSNSやホームページで情報発信したり、ペットを飼うときの注意点やかかる費用などをまとめた動画を作成して、譲渡会で見てもらうようにしてはどうか。
責任を持ってペットを飼ってもらえるように、しつけを行ったり飼育方法を学ぶことができるペットの保育園のような施設を作ってはどうか。

答弁 動物愛護センターでは、毎週土曜日・日曜日に譲渡会を行うほか、県内各地での譲渡会も予定している。譲渡会の開催についてSNSなどで情報発信するとともに、動物を飼うことに興味を持つ人が、前もって飼い主の心構えなどを知ることができるよう動画作成についても検討を進めていく。
また、センターでは、「パピーパーティ」という子犬との暮らし方やしつけ方を学ぶ教室のほか、動物について様々なことを学べる教室を用意している。このほか、しつけなどペットに接する楽しみを持つ飼い主向けに飼育相談会も開催し、安心して飼い続けることができるよう支援している。

動物を大切に
広島県の実現

質問 児童生徒がいじめなどで悩んでいるときに、希望の先生と面談ができるような相談しやすい工夫をしてはどうか。
学校でLGBTQ+などについて学べる機会を増やしてはどうか。例えば、小学3年生以上を対象に、少なくとも半年に1回は多様性についての授業をしたり、図書室にコーナーを作り、本を置いて、誰もが気軽に読めるようにしてはどうか。

現在、多くの学校で、学校図書館のリニューアルが行われており、LGBTQ+についての図書を設置する学校も増えてきている。
また、県内すべての市町に対して、LGBTQ+に関する講演会や授業の実施状況(じっしじょうきょう)を聞いたり、ヒューマンフェスタなどの取組について情報を共有するなどの連携をし、小中学校での実践(じっせん)が広がるよう取り組んでいる。

答弁 学校内外のいじめなどの相談窓口を紹介したり、相談しやすい環境づくりのために、全校児童生徒を対象に担任や学年主任などの先生に見学面談を行っている学校もある。今後も、一人一人の思いに寄り添いながら、いじめなどの悩みを相談しやすい環境づくりができるよう、学校を支援していく。

一人一人の個性を尊重する取組



まちづくりグループ

広島県立広島中学校	吉村 董子 議員
海田町立海田小学校	高重 希花 議員
なぎさ公園小学校	櫻井 愛子 議員
広島市立尾長小学校	阿部 拓杜 議員
廿日市市立七尾中学校	森本 笑易 議員
広島県立広島中央特別支援学校 小学部	栗本 将希 議員
福山市立有磨小学校	河村 百華 議員

質問 広島県を代表する新たな公式マスコットキャラクター、いわゆる「ゆるキャラ」をつくってはどうか。
県外や海外の人に広島を知ってもらうために、伝統的な産業や文化に触れてもらえるような様々な機会を疑似体験できるアプリを提供してはどうか。

質問 見守りや教えてくれる大人の人があり、誰もが自由に学習などに利用できる「地域の学習スペースの整備」を進めてはどうか。

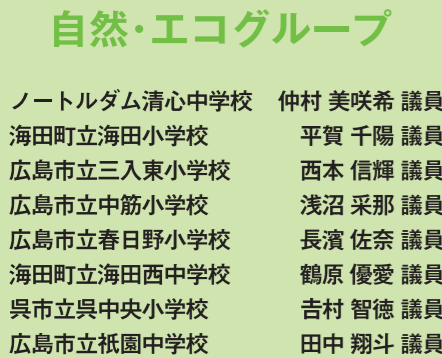
質問 空き家を住宅だけではなく、放課後の学習スペースや地域の集会所などのみんなのために使う目的で利用を希望している人や団体と結びつける仕組みを作ってはどうか。

答弁 これまで、取組に合わせたデザインや名前前のマスコットキャラクターを作成し、取組の内容やメッセージを分かりやすく発信してきた。こうした中、広島県を多くの人に届けるために「ひろくま」が誕生した。皆さんにも「ひろくま」のファンになって、一緒になって広島県を発信してもらえたらうれしい。
スマホやタブレットを通じて、平和記念公園の3Dでの見学やカキの水揚(みずあ)げ体験、縮景園散策(しゅくけいえんさんさく)など、手軽に体験できるようにしている。こうした取組を充実させていき、広島県の魅力や価値を県外や海外の人に知っていただけるよう進めていく。

世界中の人に
知ってもらえる
広島県

地域の学習
スペースの整備

空き家の有効活用



くらし・交通グループ

なぎさ公園小学校	石橋 音和 議員
廿日市市立金剛寺小学校	森本 希承 議員
広島市立緑井小学校	土肥 健一 議員
修道中学校	宮原田 誠 議員
海田町立海田小学校	坂田 いろ 議員
近畿大学附属広島中学校東広島校	
東広島市立高屋西小学校	長合 華梨 議員
	長野 由稟 議員

質問 地震に関する情報を得たり、防災用品の購入(こうにゅう)や配布に使える機能を一括してまとめたアプリなどを開発できないか。
スマホで津波の通知を受けて、最適な避難(ひなん)経路が分かれば、死者が減らせるのではないか。

質問 スマホやパソコンの広告を使って、選挙への意識を高める広告を作って出してはどうか。投票所に屋台等を置くなど、魅力を作り、宣伝すれば、投票所に来る若者も増えると思う。

質問 横断歩道の白線の長さを長くして、横断歩道の幅を広くとってはどうか。そのことで多くの人が余裕(ゆゆう)をもって渡ることができ、点字ブロックを利用しやすくてきとと思う。

質問 歩道を三つに分け、車道側を自転車、中央を一般の歩道、一番奥を老年寄りや妊婦(にんぶ)の方、車いすの方など、ゆっくり進む人のための「思いやりゾーン」としてはどうか。

答弁 広島県が開発に協力したスマートフォン用防災アプリには、防災に必要な様々な機能が一括して搭載されており、このアプリを幅広い世代の皆様へ活用していただくための取組を進めている。
また、「一斉地震防災訓練」や、VRの教材を活用したオンライン講座(こうざ)の実施など、引き続き、皆様の防災意識を高め、いざという時には速やかに避難していただけるよう、取り組んでいく。

答弁 今年の広島県議会議員選挙では、広島東洋カーブの新井監督(かんとく)を起用し、HPの開設や、SNS、WEBサイトやアプリでの広告などを実施した。
日本でも、オーストラリアでの魅力づくりの取組に類似した取組事例がある。こうした情報などを市町と共有し、公職選挙法の考え方を踏まえ投票率の向上に向けた検討を進めていく。

答弁 幅が広いほど歩行者の間隔が広がるメリットがある一方、ドライバーが横断歩行者の存在に気づきにくくなったり、「斜め横断」を誘発しかねないため、安全性と利便性のバランスに配慮することが必要である。交通環境や利用実態などを総合的に検討して横断歩道やエスコートゾーンの整備と維持管理を図る。

答弁 歩行者と自転車の通行するエリアを舗装(ほそう)の色や植樹(しょくじゆ)帯などの仕切りで分け、歩行者と自転車の接触(せつしよく)を減らすための取組を行っている道路もある。歩行者や自転車の通行が多い駅前や都市部において、「思いやりゾーン」などの誰もが安心して道路を利用できる取組について検討を進めていく。

南海トラフ
巨大地震(じゆん)
への備え

選挙の
投票率向上

安全な横断歩道
の整備

歩道の使い方